

横壹田中遺跡 No.2

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014.7

前橋市教育委員会
有限会社ブリックホーム
有限会社毛野考古学研究所

例 言

1. 本報告書は、宅地造成工事に伴う横室田中遺跡No.2の発掘調査報告書である。
2. 調査は、事業者である有限会社ブリックホームより委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 発掘調査の要項は次の通りである。
発掘調査場所：群馬県桐生市富士見町横室宇田中 667
遺 跡 番 号 : 90027
遺 跡 略 称 : 259.2
発 挖 調 査 期 間 : 平成 26年3月17日～平成 26年3月 28日
整理・報告書作成期間 : 平成 26年4月 2日～平成 26年7月 31日
発掘・整理担当者：和久裕照（有限会社毛野考古学研究所）
4. 本遺跡に係る遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
5. 本書の編集は和久が行った。原稿執筆は1を畠田貴之（前橋市教育委員会）、他を和久が担当した。
6. 発掘調査・整理作業に関わった方々は以下の通りである。（50音順・敬称略）
【発掘調査】石倉聰夫・亀田和子・竹生正明・永井史歩・橋元裕児
【整理作業】池内麻美・小野澤絹子・合田幸子・瀬尾則子・半澤利江・深谷道子・渡辺博子
7. 発掘調査で出土した遺物および図面などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
8. 以下の諸機関にはご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。（50音順・敬称略）
北爪機工・有限会社ブリックホーム

凡 例

1. 遺構図の縮尺は挿図中にスケールを付してある。また、図中の方位北は座標北であり、座標値は世界測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は1/1～1/5で掲載し、図中にスケールを付してある。なお、遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
遺構の略称は、次の通りである。
3. H: 住居跡 D: 土坑

目 次

卷頭写真	2 調査経過	2
例言・凡例・目次・図版目次・表目次	III 標準堆積土層	2
	IV 遺構と遺物	5
I 調査に至る経緯	V 主とめ	14
II 調査方針と経緯		
1 調査方針	抄録・専付	

図版目次

Fig. 1 調査地点位置図	1	Fig. 7 H-2号住居跡 (2)	8
Fig. 2 基本縦断	2	Fig. 8 H-3号住居跡	9
Fig. 3 周辺の遺跡	3	Fig. 9 H-4号住居跡・D-1号土坑	10
Fig. 4 調査区全体図	4	Fig.10 出土遺物 (1)	11
Fig. 5 H-1号住居跡	6	Fig.11 出土遺物 (2)	12
Fig. 6 H-2号住居跡 (1)	7		

表 目 次

Tab. 1 周辺の遺跡一覧表	3	Tab. 4 出土遺物観察表 (1)	13
Tab. 2 遺構一覧表	5	Tab. 5 出土遺物観察表 (2)	14
Tab. 3 出土遺物集計表	13		



横室田中遺跡 No.2 住居跡群全景（1）（西から）



横室田中遺跡 No.2 住居跡群全景（2）（南東から）

卷頭写真 2



H-1号住居跡 完掘状況（北西から）



H-1号住居跡 遺物出土状況（北西から）



H-2号住居跡 完掘状況（北西から）



H-2号住居跡 カマド完掘状況（北西から）



H-2号住居跡 P1 完掘状況（南東から）



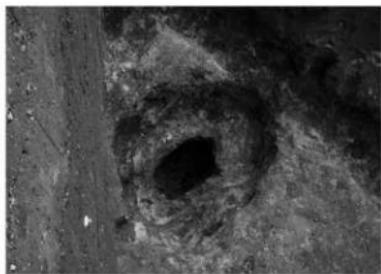
H-2号住居跡 P3・P5 完掘状況（北から）



H-2号住居跡 遺物出土状況（南から）



H-3号住居跡 完掘状況（西から）



H-3号居住跡 P1 完掘状況（北西から）



H-3号居住跡 遺物出土状況（北西から）



H-4号居住跡 完掘状況（北から）



H-4号居住跡 遺物出土状況(1)（南東から）



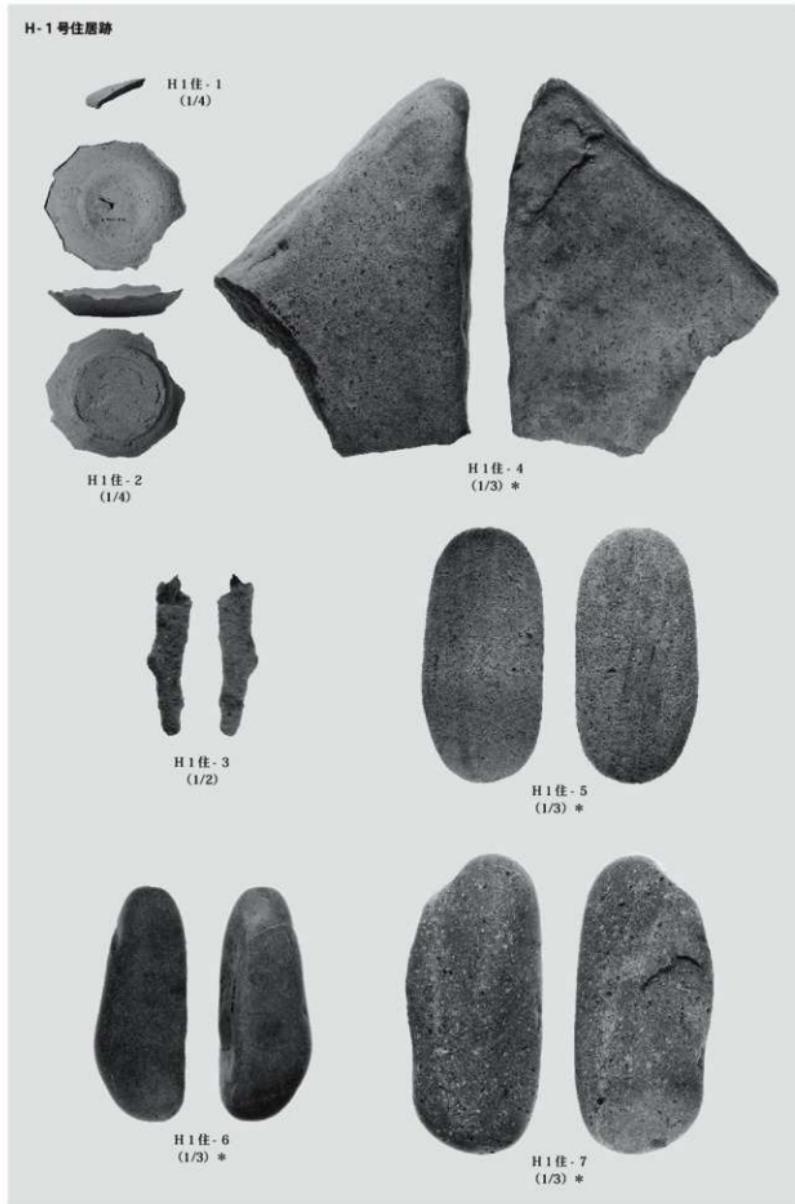
H-4号居住跡 遺物出土状況(2)（南東から）



D-1号土坑 完掘状況（北西から）

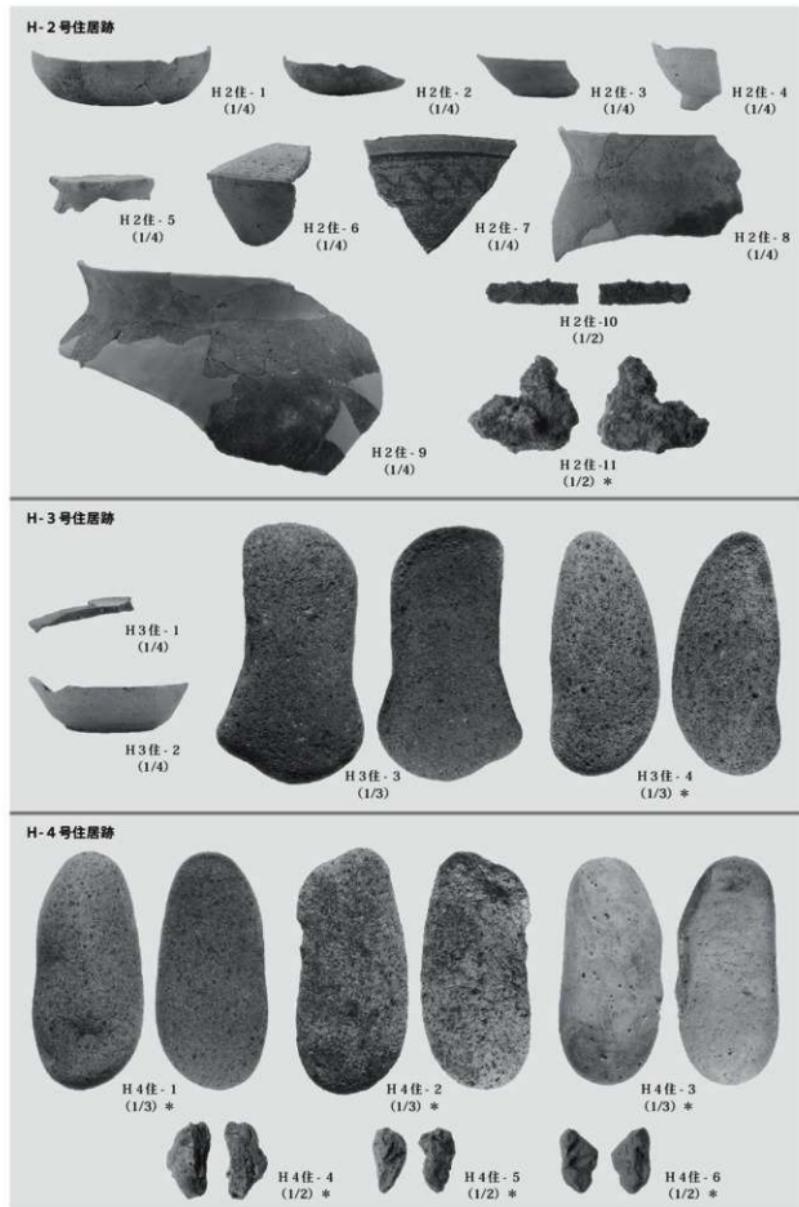


基本層序 テストピット土層断面（南西から）



横室田中遺跡 No.2 出土遺物 (1)

*印付きは図化対象外遺物

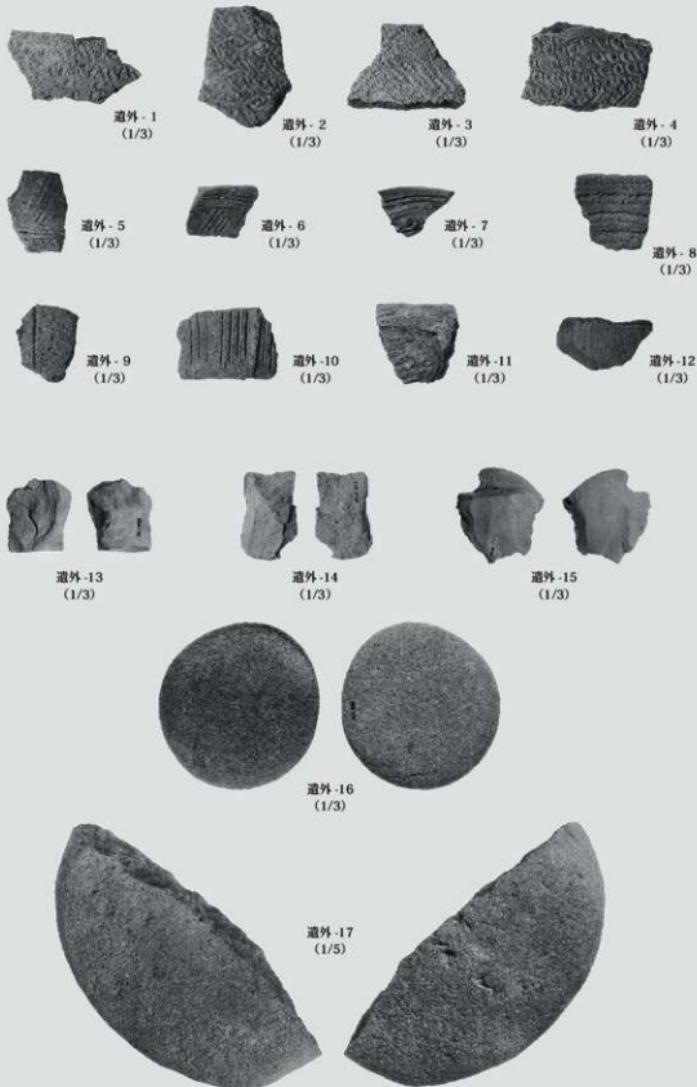


横田中遺跡 No.2 出土遺物 (2)

*印付きは陶化対象外遺物

卷頭写真 6

遺構外出土遺物



横室田中遺跡 No.2 出土遺物 (3)

*印付きは炭化対象外遺物

I 調査に至る経緯

平成 25 年 11 月 21 日付けで有限会社ブリックホームより宅地造成工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 12 月 11 日に試掘調査を実施し、住居跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、造成箇所については現状保存とし、道路部分については発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 26 年 3 月 7 日付けで有限会社ブリックホーム、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年 3 月 17 日から現地調査が開始された。

II 調査方針と経過

1 調査方針

本発掘調査は宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、調査面積は 140 m²である。調査対象地は試掘調査によって遺構の有無が確認され、調査範囲の設定が行われた。調査を進めるにあたって、測量は世界測地系の公共座標に基づいて行われている。調査方法は、表土掘削→遺構確認・検出作業→遺構掘削作業→土層確

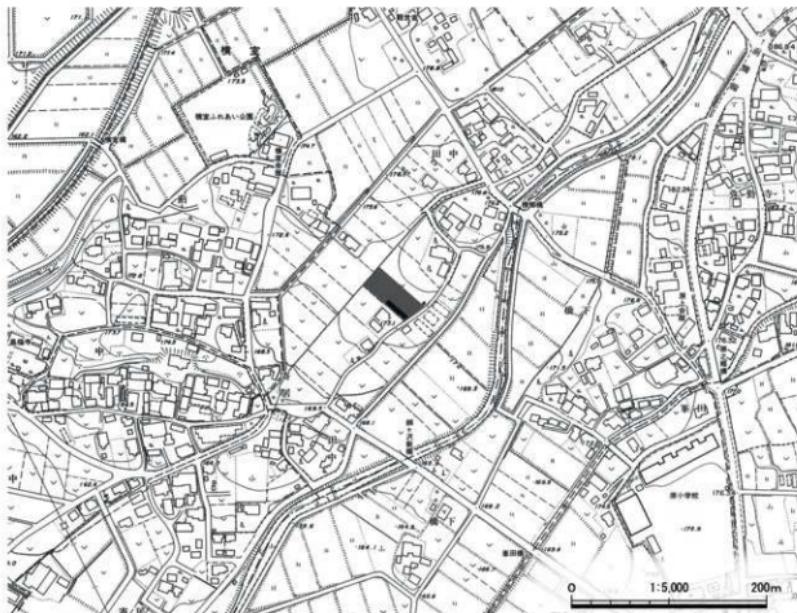


Fig. 1 調査地点位置図（前橋市役所発行『前橋市現形図 32-2』 S = 1/2,500 を使用） ■：開発地 ■：調査区

認→遺構完掘の順で行い、写真撮影・遺構測量は進捗状況に合わせて適宜行った。表土除去は重機による掘削で、遺構確認面（VI層中位）まで掘り下げを行った。遺構確認作業にはジョレンを、遺構掘削には移植ゴテを使用し、出土遺物は可能な限りトータルステーションを使用して3次元計測をした後に取り上げを行った。検出された遺構は、平面測量・写真撮影による記録保存を行い、遺構平面図は1/20を基本として作成し、トータルステーションを使用して測量している。遺構写真は35mm白黒フィルム、35mmカラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、補助として1,400万画素のコンパクトデジタルカメラを併用した。

2 調査経過

【発掘調査】 平成26年3月17日：重機搬入後、表土掘削。午後、人力による遺構確認。3月18日：検出遺構の覆土掘り下げに着手。3月25日：H-1・2号住を完掘。3月26日：平面測量を実施。遺構使用面に関する主要な掘削作業が終了、調査区全景写真の撮影。3月27日：住居跡の床面やカマドにサブトレチを設け、掘り方の調査・記録。市教委立ち会いのもと、作業終了に向けての必要事項を確認。3月28日：必要事項を実施、測量作業の残りを行い、作業の全工程を終了。

【整理作業】 平成26年4月2日：遺構図の修正作業・出土遺物の洗浄・注記作業を開始。4月9日：遺物の分類・接合作業を開始。4月14日：遺物実測作業を開始。4月21日：遺構図・遺物実測トレース・版組を開始。5月26日：報告書原稿作成を開始。6月30日：入稿・校正。7月24日：印刷・製本。7月31日：報告書刊行・納品。

III 標準堆積土層

本遺跡は、西の法華沢川と東の細ヶ沢川にはさまれたローム台地の東端部に位置する。台地の東縁辺は、細ヶ沢川に向け比高差4mほどの段丘状の急傾斜となる。当地では、堆積年代を如実に示す鍵層の土は、視認できないか、相当層準付近に点在するのみである。Hr-FAないしFPは、新しい時代の表土付近にまで広く散在している。

なお、基本層序を図化した調査区東部中央付近に限り、As-Bの堆積が残っている。また、As-B直下、およびAs-Bと表土の間の2~3か所で、鉄分の沈着した層が認められる。これは、集落よりのちの時代、当地周辺で土壤の攪拌を伴う耕作が行われたことを示唆しており、Hr-FAないしFPが散在することと同根の事象と考えることもできる。

基本層序 土層説明

- Ia 灰褐色土 表土。As-B由来の微細粒を少量含む。しまり、粘性ともやや強い。
- Ib 黄褐色土 耕作土。Ia層に似るが、粘性普通。
- IIa 硫褐色土 Hr-FAまたはFP(径2~6mm)を少量含み、鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性普通。
- IIb 硫褐色土 IIa層に似るが、鉄分の沈着がより顯著。
- III 黄褐色土 Hr-FAまたはFP(径2~8mm)を少量含む。しまり、粘性とも普通。南北ほど層厚を増し、調査区北部で10cm、南部で60cmを測る。
- IV 灰褐色土 As-B相当層。局地的に散在。
- V 黑褐色土 Hr-FAまたはFP(径2~8mm)を中量。炭化物粒(径1~3mm)



表土掘削作業状況（北西から）

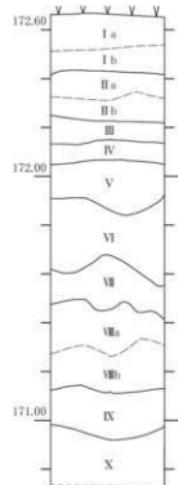


Fig. 2 基本層序 (S = 1/20)

および地土軸(径1~3mm)を微量含む。しまり、粘性とも普通。

Ⅵ 塗褐色土 熟成の白色粒子を微量含む。しまり、粘性とも普通。調査時代の遺物包含層に相当。

Ⅶ 黑褐色土 ローム堆積層。細かい白色粒子。および下位にAs-VP(径1~3mm)を少量含む。しまり、粘性とも普通。

Ⅷa 黄褐色土 As-OK相当層。しまり、粘性とも普通。

Ⅷb 黄褐色土 As-SP相当層。しまり普通。粘性やや強い。

Ⅸ 黄褐色土 As-EP相当層。しまり、粘性ともやや強い。

X 黄褐色土 As-VP相当層。しまりやや強く、粘性強い。



横室田中遺跡周辺の空中写真（真上を北 国土地理院 1974年10月撮影 S=1/25,000）

No	遺跡名	内 容	時 代
1	横室田中	集落	縄(前), 奈平
2	向吹塚	散布地	縄, 奈平, 中近
3	(貝神)	散布地	縄
4	丸山城跡	散布地, 墓群	縄, 室町
5	(丸山)	散布地	縄, 古
6	芦谷戸	集落など	縄, 古, 奈平, 中近
7	見廻	集落など	縄, 奈平, 中近
8	(東上原)	散布地	縄, 古
9	(土小原日)	散布地	縄, 古, 奈平
10	阿威城跡	城館	室町
11	(下小原日)	散布地	縄
12	猿谷城跡	城館	室町
13	(原原)	散布地	縄, 古
14	(切蓋)	散布地	縄, 古
15	(三反田)	散布地	古
16	初室古墳	墳墓	古
17	庄司古墳群	墳墓	古
18	森山(三引)城跡	城館	中世
19	森山古墳	墳墓	古
20	(田中, 道上)集落	古	
21	道上古墳	墳墓	古
22	(高橋)	散布地	縄, 古
23	森古墳	墳墓	縄(前)
24	田島白川	集落	古
25	田島城跡	城館	中世
26	原之郷久保田	集落	古, 奈平
27	(十二)	散布地	縄
28	(筑前林)	散布地	古
29	鍛錬古墳	墳墓	古
30	(諏訪)	散布地	縄
31	時の中谷	集落	奈平
32	小字の郷	集落など	古, 奈平, 中近
33	原之郷御沢	集落	平安
34	(鍛錬)	散布地	古
35	横室古墳	墳墓	古
36	寄居	集落, 墓群	中近
37	陣場古墳	墳墓	古
38	金山城跡	城館	室町
39	(庄司原)	散布地	縄, 古, 古
40	(陣場)	散布地	縄(前・後)
41	田中田	集落など	縄, 古, 古
42	(田中田)	散布地	古
43	荒井古墳	墳墓	古
44	岩之下	集落など	縄, 古, 奈平
45	(東久保)	散布地	古
46	(山之後)	散布地	古, 古, 奈平
47	九十子山古墳	墳墓	古
48	(善養寺)	散布地	古, 古, 奈平
49	朝久保B	集落など	縄, 古, 中近
50	朝久保C	集落など	縄, 古, 中近
51	朝久保	集落など	縄, 古, 奈平
52	引切塚	集落	古, 古

Tab. 1 周辺の遺跡一覧表



Fig. 3 周辺の遺跡（国土地理院発行 地形図『渋川』S = 1/25,000 を使用）

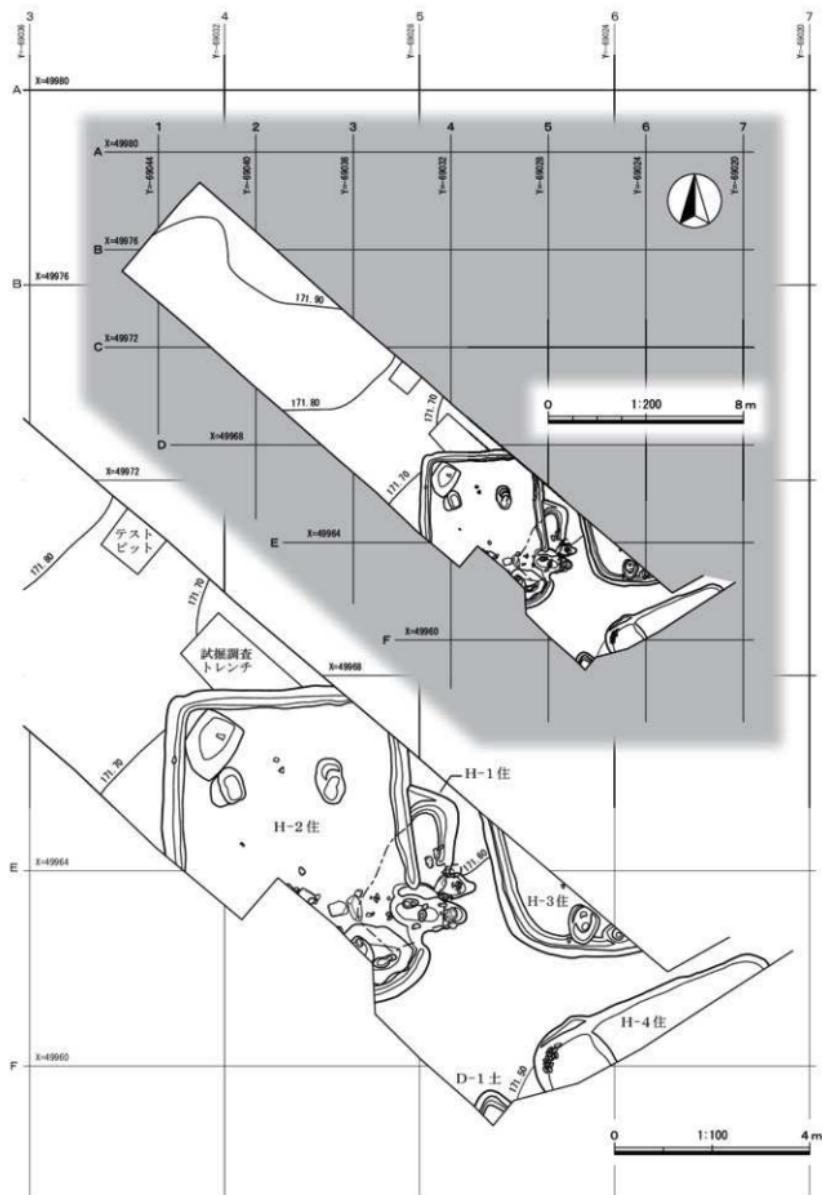


Fig. 4 調査区全体図

IV 遺構と遺物

今回の調査により、堅穴住居跡4軒および土坑1基が検出された。各遺構の計測値、出土遺物などの概要については、下の「遺構一覧表」(Tab. 2)にまとめてある。

堅穴住居跡のうち、カマドが検出されたのはH-1号とH-2号の2軒で、両者は重複している。H-1号が新しく、H-2号の覆土を掘り込んで構築されている。

H-1号は、1辺2mあまりとみられる小型の堅穴住居跡である。カマドは崩落・損壊が顕著で、燃焼面や灰面といった下部構造の一部が認められるに過ぎず、構築材とおぼしき礫が床面直上やその付近の覆土中に散在している。床はH-2号との重複範囲では軟弱な貼り床が施されていたとみられ、面的な把握が困難であった。一方、範囲外のカマド周辺は、直床に近い状態で、きわめて堅緻である。

H-2号は、今回の調査において検出範囲の最も広い住居跡である。カマド構築材らしき礫が床面直上付近に散在する点はH-1号とおおむね共通するが、燃焼面や灰面のほか、カマド右袖部が損壊を免れ、原状をよく残していた。柱穴の平面形が双円形に近似する点、底面のくぼみが2つある点などから、同住居跡では少なくとも1度、柱の据え替えを伴う改築が行われたものと推測される。カマド右脇に位置する貯蔵穴(P5)は、柱穴(P3)を埋置した直後、同じ掘り方の穴を利用して設けられている。掘り方は、床の縁辺部において深くなり、隅付近の一部ではP4のような床下土坑を伴う。また、H-1号とは対照的に、顕著な貼り床が施されている。

H-3・4号住は、半分以上の範囲が調査区外に位置しており、規模・形態の詳細を明らかにしない。いずれも、顕著な貼り床が施されている。

このほか、本遺跡の各住居跡に通じる特徴については、V章にてその概要を記す。

唯一検出された土坑であるD-1号は、調査区壁面至近に位置しているため、部分的な検出にとどまった。平面おおむね方形とみられ、底面縁辺が周溝状に浅くくぼむ形状であった。堅溝を伴う堅穴住居跡の可能性も否定しきれないが、覆土中の含有物が他の住居跡と比べて種類と量に乏しく、また床に相当する明瞭な硬化面が認められなかった点を加味し、土坑として扱うこととした。

Tab. 2 遺構一覧表

住居跡

遺構名	堅 構 (m)			方位	印・カマド (m)			貯蔵穴 (m)			出 土 遺 物	帰属時期	備 考
	長軸	短軸	深さ		全長	幅	長軸	短軸	深さ				
H-1	—	—	0.43	N-100°-E	0.84	0.52	—	—	—	土師器・須恵器・縦・剪輪石・鉄製品	8 c		
H-2	(6.48)	5.10	0.64	N-90°-E	1.60	1.58	1.14	0.94	0.38	土師器・須恵器・縦・剪輪石・刀子	7 c		
H-3	—	—	0.86	N-80°-E	—	—	—	—	—	土師器・須恵器・縦・剪輪石	8 c		
H-4	(5.26)	0.93	N-67°-E	—	—	—	—	—	—	土師器・粘土塊・縦・剪輪石	不明		

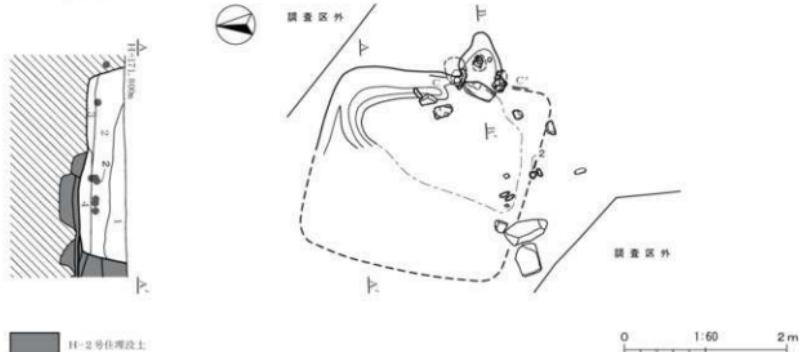
土坑

遺構名	堅 構 (m)			平面形状	長軸方位	出 土 遺 物			帰属時期	備 考
	長軸	短軸	深さ			出 土 遺 物	帰属時期	備 考		
D-1	—	—	—	椭丸形	—	土師器小片	不明		住居跡の一部か	

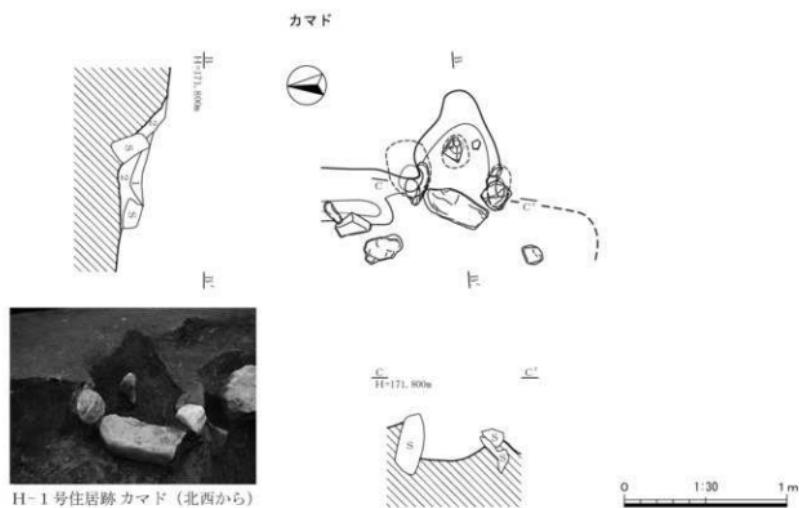


作業状況（北から）

H-1号住居跡



H-2号住居跡



H-1号住居跡 カマド (北西から)

H-1号住居跡 土壌説明

- 1 黒褐色土 Hr-FP (径2~6mm) を少量、ローム粒 (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm)、および焼土粒 (径2~5mm) をそれぞれ微量含む。
- 2 球褐色土 ローム粒 (径2~10mm) を少量、ロームブロック (径10~30mm)、Hr-FP (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm)、および焼土粒 (径2~5mm) をそれぞれ微量含む。
- 3 噴褐色土 ロームブロック (径10~40mm)、ローム粒 (径2~10mm)、および炭化物粒 (径2~6mm) をそれぞれ中量、Hr-FP (径2~6mm) および焼土粒 (径2~5mm) を微量含む。
- 4 噴褐色土 ロームブロック (径10~50mm)、ローム粒 (径2~10mm)、およ

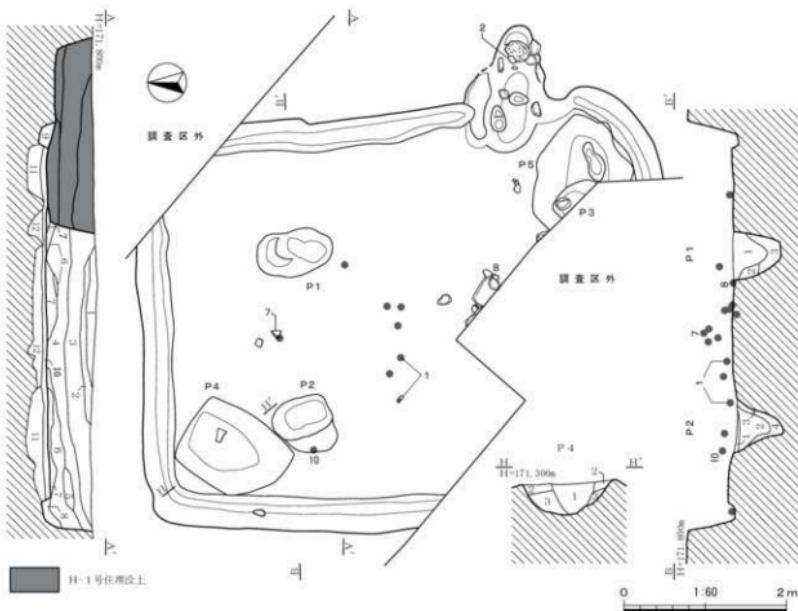
び炭化物粒 (径2~6mm) をそれぞれ中量、Hr-FP (径2~6mm) および焼土粒 (径2~5mm) を微量含む。粘性やや強め、半径に炭化物が集まる箇所あり。

H-1号住居跡 カマド土層説明

- 1 噴褐色土 ロームブロック (径10~20mm)、ローム粒 (径2~10mm)、炭化物、および焼土をそれぞれ少量、粘土を微量含む。
- 2 噴褐色土 粘土および焼土を中量、ロームブロック (径10~20mm)、ローム粒 (径2~10mm)、および炭化物をそれぞれ少量含む。粘性やや強め。

Fig. 5 H-1号住居跡

H-2号住居跡



H-2号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土 Hr-FP (径2~6mm) を中量、ローム粒 (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm)、および堆土粒 (径2~5mm) を微量含む。
- 2 墓褐色土 積土を中量、Hr-FP (径2~6mm) を少量、ローム粒 (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm)、および堆土粒 (径2~5mm) を微量含む。
- 3 墓褐色土 ローム粒 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~6mm) を少量、炭化物粒 (径2~6mm) および堆土粒 (径2~5mm) を微量含む。
- 4 墓褐色土 ローム粒 (径2~10mm) を少量、Hr-FP (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 5 墓褐色土 積土を多量に、ローム粒 (径2~10mm)、Hr-FP (径2~6mm)、炭化物粒 (径2~6mm)、および堆土粒 (径2~5mm) を微量含む。
- 6 墓褐色土 積土を多量に、炭化物粒 (径2~6mm) を微量、粘土を少量、ローム粒 (径2~10mm) を微量、Hr-FP (径2~6mm) をごく微量含む。
- 7 墓褐色土 積土を少、ローム粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 8 墓褐色土 ロームブロック (径2~40mm) を多量に、ローム粒 (径2~8mm) を中量、堆土粒 (径2~8mm) を微量含む。しかし、粘土もやや強めのロームブロック (径10~50mm) を多量に、ローム粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を中量含む。粘性やや強め。
- 9 墓褐色土 ロームブロック (径10~50mm) を多量に、ローム粒 (径2~8mm) を中量、堆土粒 (径2~8mm) を微量含む。しかし、粘土もやや強め、H-2号の灰土。
- 10 墓褐色土 ロームブロック (径2~50mm) を多量に、ローム粒 (径2~8mm) を中量、堆土粒 (径2~8mm) を微量含む。しかし、粘土もやや強め、H-2号の灰土。
- 11 墓褐色土 ロームブロック (径10~50mm) を多量に、ローム粒 (径2~8mm) を中量、堆土粒 (径2~8mm) を微量含む。しかし、粘土もやや強め、H-2号の灰土。
- 12 墓褐色土 ロームブロック (径10~50mm) を主として、ローム粒 (径2~8mm) を中量、黄土粒 (径2~8mm) を微量含む。しかし、粘土もやや強め、H-2号の灰土。

H-2号住居跡 P1 土層説明

- 1 墓褐色土 ローム粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を少量、Hr-FP (径2~4mm) を微量含む。
- 2 墓褐色土 ロームブロック (径10~30mm) およびローム粒 (径2~10mm) を少量、炭化物粒 (径2~4mm) を微量、Hr-FP (径2~4mm) をごく微量含む。
- 3 墓褐色土 ロームブロック (径10~40mm) を中量、ローム粒 (径2~10mm) を少量、炭化物粒 (径2~4mm) を微量含む。粘性やや強め。

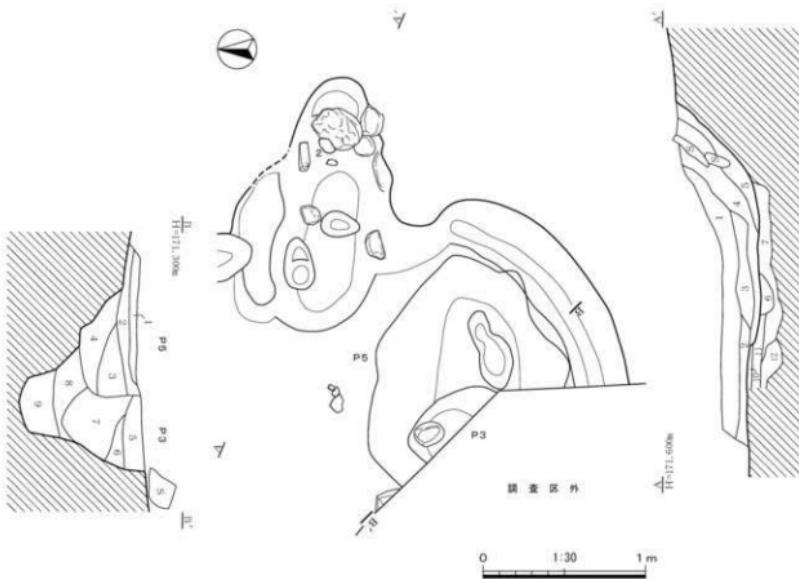
H-2号住居跡 P4 土層説明

- 1 墓褐色土 ローム粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を少量、ロームブロック (径10~20mm) および堆土粒を微量含む。
- 2 墓褐色土 ローム粒 (径2~10mm) を中量、炭化物粒 (径2~6mm) を少量、堆土粒を微量含む。
- 3 墓褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム粒 (径2~10mm) を少量、炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 4 墓褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム粒 (径2~10mm) を中量、炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。

H-2号住居跡 P4 土層説明

- 1 墓黃褐色土 ローム粒 (径2~10mm) を多量に、ロームブロック (径10~40mm) を中量、炭化物粒 (径2~6mm) および堆土粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 2 墓黃褐色土 ロームブロック (径10~50mm) を主とし、ローム粒 (径2~10mm) を中量、炭化物粒 (径2~6mm) および堆土粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 3 墓黃褐色土 ロームブロック (径10~50mm) を多量に、ローム粒 (径2~10mm) を中量、炭化物粒 (径2~6mm) および堆土粒 (径2~6mm) を微量含む。

Fig. 6 H-2号住居跡 (1)



H-2号住居跡カマド 土壌説明

- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 40mm) およびローム粒 (径 2 ~ 10mm) を中量。 粘土粒 (径 2 ~ 6mm) を少量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) を微量含む。 黏性土で、堅性土やや強い。
- 暗褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) を中量。 粘土粒 (径 2 ~ 6mm) および塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) を微量含む。 黏性土やや強い。
- 暗褐色土 粘土を多量に、ローム粒 (径 2 ~ 10mm) および焼土を中量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) を少量含む。 黏性土やや強い。
- 暗褐色土 塩化物粒を中量。 ローム粒 (径 2 ~ 10mm)、粘土、および焼土をそれぞれ少量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。
- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 20mm) を中量。 ローム粒 (径 2 ~ 10mm)、粘土、 塩化物粒、および焼土を少量含む。 黏性土やや強い。
- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 50mm) およびローム粒 (径 2 ~ 8mm) を中量。 粘土粒 (径 2 ~ 8mm) および塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) を少量含む。 黏性土やや強い。 石の抜き取り組。
- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 50mm) および粘土を中量。 ローム粒 (径 2 ~ 8mm) および塩化物粒を少量含む。 しまり。 黏性土やや強い。
- 10 ~ 12 H-2号住居跡の土壌説明を参照。

H-2号住居跡 P3・P5 土壌説明

- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 30mm) およびローム粒 (径 2 ~ 10mm) を中量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) および焼土粒 (径 2 ~ 6mm) を少量含む。 しまり。 黏性土やや強い。
- 暗褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 30mm) およびローム粒 (径 2 ~ 10mm)

を中量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm)、焼土粒 (径 2 ~ 6mm)、および粘土粒をそれぞれ少量含む。 しまり、粘性土やや強い。

3 対黄褐色土 粘土を多量に、ロームブロック (径 10 ~ 50mm) を中量。 ローム粒 (径 2 ~ 6mm) をそれぞれ少量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

4 対褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 50mm) を多量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) およびローム粒 (径 2 ~ 10mm) を少量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

5 対褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) を少量。 粘土粒 (径 2 ~ 6mm) を微量。 ロームブロック (径 10 ~ 50mm)、焼化物粒 (径 2 ~ 6mm)、および粘土をそれぞれ少く微量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

6 対褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) を少量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) および粘土粒を微量。 ロームブロック (径 10 ~ 50mm) および焼土粒 (径 2 ~ 6mm) をごく微量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

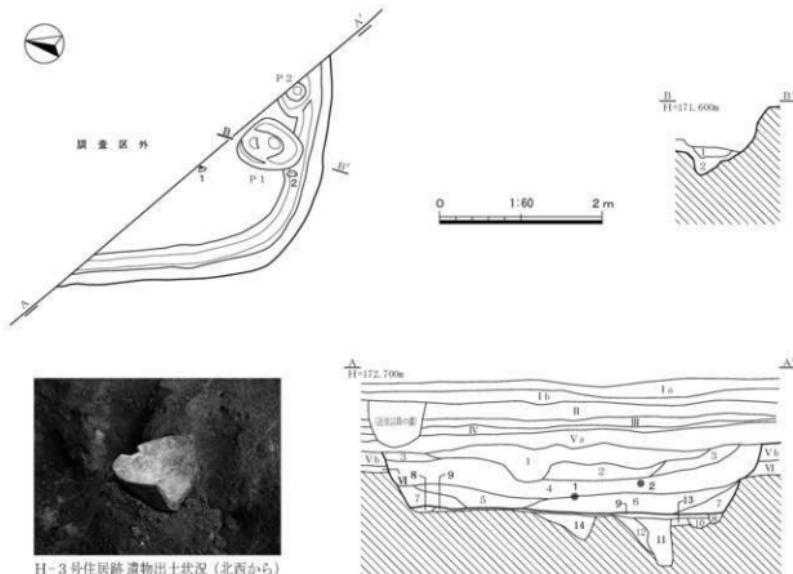
7 対褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) および粘土を中量。 ロームブロック (径 2 ~ 6mm) を少量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

8 対褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) および粘土を中量。 ロームブロック、焼土粒 (径 2 ~ 10mm) をごく微量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

9 対褐色土 ローム粒 (径 2 ~ 10mm) および粘土を中量。 ロームブロック (径 10 ~ 50mm) および焼土粒 (径 2 ~ 10mm) を少量。 塩化物粒 (径 2 ~ 6mm) を微量含む。 しまり普通。 黏性土やや強い。

Fig. 7 H-2号住居跡 (2)

H-3号住居跡



H-3号住居跡 遺物出土状況（北西から）

H-3号住居跡 土層説明

- 1 單褐色土 ローム土を中量、ロームブロック（径10～20mm）およびHr-FP（径2～8mm）を微量含む。
- 2 單褐色土 ローム土（径2～10mm）およびHr-FP（径2～8mm）を少量、他土粒（径2～10mm）および炭化物粒（径2～6mm）を微量、ロームブロック（径10～20mm）をごく微量含む。
- 3 單褐色土 ローム土（径2～10mm）を少量、他土粒（径2～10mm）、Hr-FP（径2～8mm）、および炭化物粒（径2～6mm）をそれぞれ微量、ロームブロック（径10～40mm）をごく微量含む。
- 4 單褐色土 ローム土（径2～10mm）およびHr-FP（径2～8mm）を微量含む。
- 5 單褐色土 ロームブロック（径10～20mm）、ローム粒（径2～8mm）、およびHr-FP（径2～6mm）を微量、他土粒（径2～8mm）および炭化物粒（径2～6mm）をごく微量含む。
- 6 單褐色土 他土粒（径2～8mm）を少量、ロームブロック（径10～20mm）、ローム粒（径2～8mm）、およびHr-FP（径2～8mm）を微量含む。
- 7 單褐色土 ロームブロック（径10～20mm）、ローム粒（径2～8mm）、および他土粒（径2～8mm）を微量、Hr-FP（径2～6mm）および炭化物粒（径2～6mm）をごく微量含む。
- 8 單褐色土 ロームブロック（径10～20mm）およびローム粒（径2～8mm）を少量、他土粒（径2～8mm）を微量、Hr-FP（径2～6mm）および炭化物粒（径2～6mm）をごく微量含む。粘性やや強い。
- 9 單褐色土 ローム粒（径10～50mm）を多量に、ローム粒（径2～8mm）

を少量、他土粒（径2～8mm）を微量含む。しまり、粘性ともやや強い。

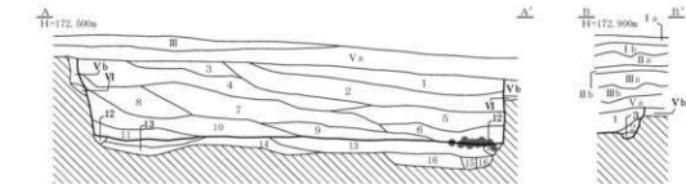
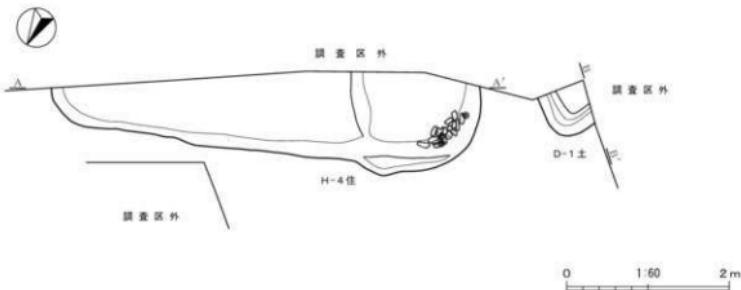
- 10 單褐色土 ロームブロック（径10～40mm）およびローム粒（径2～8mm）を中量、他土粒（径2～8mm）を微量含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 11 單褐色土 ロームブロック（径10～40mm）およびローム粒（径2～8mm）を中量、他土粒（径2～8mm）を少量、炭化物粒（径2～6mm）を微量含む。しまり普通、粘性やや強いくらい。
- 12 單褐色土 ロームブロック（径10～40mm）、ローム粒（径2～8mm）、他土粒（径2～8mm）、および炭化物粒（径2～6mm）を微量含む。
- 13 單褐色土 ローム粒（径2～8mm）を多量に、ロームブロック（径10～40mm）を中量、他土粒（径2～8mm）および炭化物粒（径2～6mm）を少量含む。粘性やや弱い。
- 14 單褐色土 ロームブロック（径10～40mm）を多量に、ローム粒（径2～8mm）を中量、他土粒（径2～8mm）および炭化物粒（径2～6mm）を少量含む。粘性ともやや強い。

H-3号住居跡 P1 土層説明

- 1 單褐色土 ローム粒（径2～10mm）を中量、ロームブロック（径10～20mm）および炭化物粒（径2～6mm）を少量含む。
- 2 單褐色土 ロームブロック（径10～20mm）およびローム粒（径2～8mm）を中量、炭化物粒（径2～6mm）を少量含む。

Fig. 8 H-3号住居跡

H-4号住居跡・D-1号土坑



H-4号住居跡 土層説明

- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) を少量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) を少量。焼土粒 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) 、および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) %を微量。ロームブロック (径2~20mm) 、焼土粒 (径2~10mm) 、および炭化物粒 (径2~6mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ローム土をや量。ロームブロック (径10~20mm) およびHr-FP (径2~8mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム土を中量。Hr-FP (径2~10mm) 少量。Hr-FP (径2~6mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 暗褐色土 ローム土を少量。ローム粘 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ローム土 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) 、ローム粘 (径2~10mm) 、およびHr-FP (径2~6mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) をごく微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) を少量。焼土粒 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~6mm) を微量含む。
- 暗褐色土 炭化物粒 (径2~4mm) を少量。ローム粘 (径2~10mm) 、およびHr-FP (径2~6mm) を微量含む。

ロームブロック (径10~20mm) をごく微量含む。

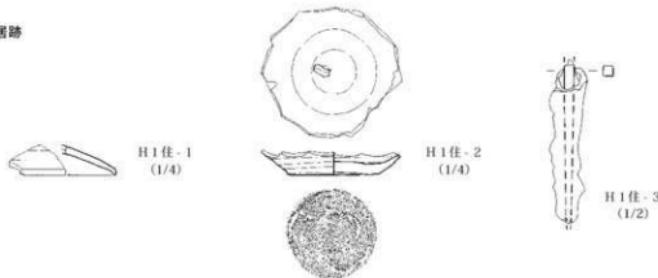
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム粘 (径2~10mm) を中量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) を微量。Hr-FP (径2~6mm) をごく微量含む。粘性土を強め。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) を多量に。ローム粘 (径2~10mm) を微量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) を少量。Hr-FP (径2~6mm) をごく微量含む。つまり、粘性土とも強め。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム粘 (径2~10mm) を中量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) を微量。Hr-FP (径2~6mm) をごく微量含む。つまり、粘性土とも強め。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) 上部。ローム粘 (径2~10mm) を中量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) を微量含む。ローム粘 (径2~10mm) を主体。ローム粘 (径2~10mm) を中量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~4mm) を微量含む。つまり、粘性土とも強め。H-4号住の床土。
- 暗褐色土 ロームブロック (径10~20mm) およびローム粘 (径2~10mm) を中量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。

D-1号土坑 土層説明

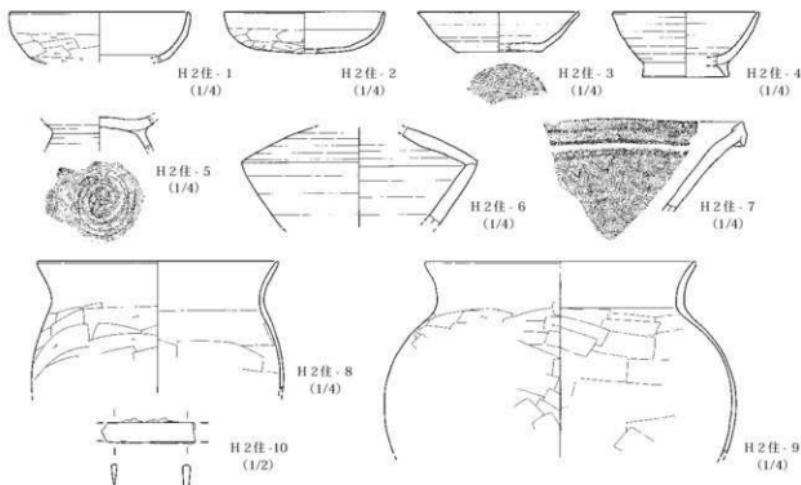
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~8mm) を少量。焼土粒 (径2~10mm) および炭化物粒 (径2~6mm) を微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) を少量。焼土粒 (径2~10mm) 、Hr-FP (径2~8mm) 、および炭化物粒 (径2~6mm) をそれぞれ微量含む。
- 暗褐色土 ローム粘 (径2~10mm) 、ロームブロック (径2~20mm) 、焼土粒 (径2~10mm) およびHr-FP (径2~6mm) を微量含む。

Fig. 9 H-4号住居跡・D-1号土坑

H-1号住居跡



H-2号住居跡



H-3号住居跡

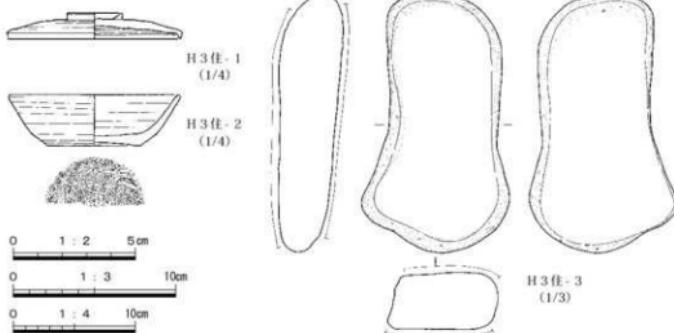


Fig.10 出土遺物(I)

遺構外出土遺物

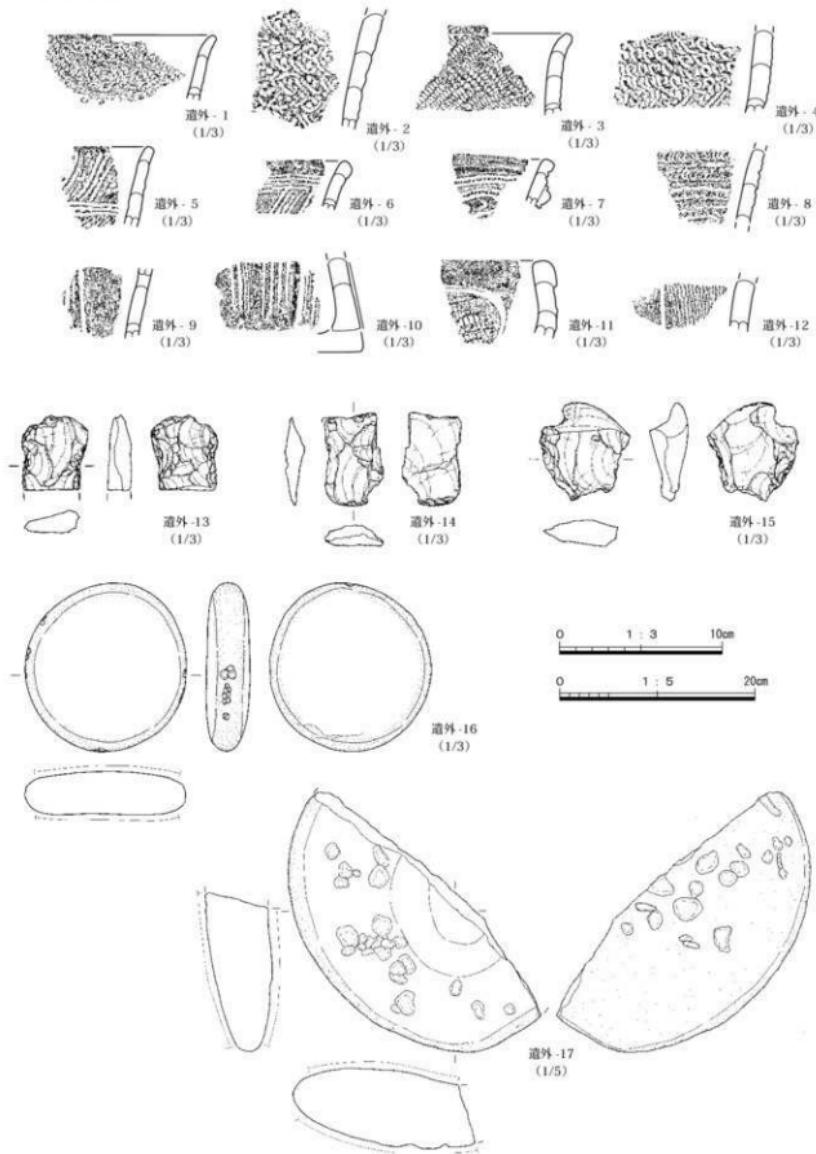


Fig. 11 出土遺物 (2)

Tab. 3 出土遺物集計表

遺物種別\出土位置	H-1号住居跡		H-2号住居跡		H-3号住居跡		H-4号住居跡		D-1号土坑		遺構外	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
土器	104	750.0	341	2,140.4	79	600.0	13	60.0	3	20.0	1	9.6
須恵器	20	650.0	109	3,031.8	9	220.0	—	—	—	—	3	118.2
粘土塊	—	—	—	—	—	—	3	8.6	—	—	—	—
陶器	—	—	—	2	13.5	—	—	—	—	—	—	—
石器類・礫	1	5,000.0	11	768.5	4	100.0	1	650.0	—	—	—	—
磨縞石	5	3,050.0	1	850.0	2	1,500.0	17	8,870.0	—	—	1	250.0
鉄製品	1	17.5	2	46.3	—	—	—	—	—	—	—	—
繩文土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	63	1,000.0
繩文石器類・礫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	4,607.7

Tab. 4 出土遺物観察表(1)

H-1号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
				①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④体～口縁部片	外面：輪縫成形、体部回転糸切り。 内面：輪縫整形。	
1	須恵器 蓋	—	—	—	—	—
2	須恵器 环	底径 7.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④体～底部片	①還元焰成形、底部回転糸切り。 内面：輪縫整形。	意図的に縁辺が打ち欠かれたもの	
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
3	鉄製品	不明	残存長 6.7 重さ 16.90	棒状、断面方形	—	—

H-2号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
				①酸化焰 ②にぶい褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/2	外面：口縁部横ナデ。体～底部鋸ヶ切り。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
1	土師器 环	口径 (14.6)	—	—	—	—
2	土師器 环	口径 (13.0) 高さ (3.4)	—	—	—	—
3	須恵器 环	口径 (12.2) 底径 (7.0)	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/3	①還元焰成形、底部回転糸切り。 内面：輪縫整形。	—	—
4	須恵器 碗	口径 (11.8) 底径 (7.0)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部上位 1/4	①還元焰成形、底部回転糸切り。 内面：輪縫整形。	—	—
5	須恵器 碗	—	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④底部	①還元焰成形、底部回転ナデ。高台附付。 内面：輪縫整形。	—	—
6	須恵器 長頸壺	—	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④体部 1/4	①還元焰成形、体部上位に自然縮頸著。 内面：輪縫整形。	—	—
7	須恵器 甕	—	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～頸部片	①還元焰成形、底部ナデ後 波状文。 内面：口縁部横ナデ。	—	—
8	土師器 甕	口径 (22.0)	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	—
9	土師器 甕	口径 (19.6)	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	①酸化焰 ②明赤褐色 ③赤褐色粒・黒色粒 ④口縁～体部 1/3	—
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
10	鉄製品	刀子	残存長 3.9 幅 0.8 厚さ 0.2 ~ 0.3 重さ 3.15	—	—	—

H-3号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
				①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④体～口縁部片	外面：輪縫成形、つまみ貼付。 内面：輪縫整形、裏貼付。	
1	須恵器 蓋	口径 (14.2) つまみ径 (4.6)	—	—	—	—
2	須恵器 环	口径 (14.0) 高さ 4.2 底径 (7.6)	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～底部 1/2	①還元焰成形、底部回転糸切り。 内面：輪縫整形。	—	—
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③焼土 ④残存	成・整形技法の特徴		備考
3	石器	磨石または砥石	長さ 15.9 幅 9.0 厚さ 3.9 重さ 790.8	安山岩 不整形。扁平錐の表・裏面に削耗痕。	—	—

Tab. 5 出土遺物観察表(2)

遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴				備考
			①焼成	②色調	③耐火	④残存	
1	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・鐵雜	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	多段の結節文を伴う單施繩文L.R。	前期中葉 二ツ木～開山I式
2	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・チャート・鐵雜	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	重複する結節文。原体は2本のL。	前期中葉 二ツ木～開山I式
3	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・鐵雜	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	O段多条の原体による羽状彫文。内面横位ナデ。	前期中葉
4	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・チャート・鐵雜	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	コンバス文。2種の原体によるループ文。上は単簡のR.L.、下はL.R.	前期中葉 開山II式
5	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・チャート・鐵雜	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	半截竹管状工具による比繩文。地文に斜行彫文。	前期中葉 開山II式
6	縄文土器 深鉢	—	①普通 黒色粒	②明赤褐色 ④口縁部片	③白色粒	柳唐狀工具による沈繩文。内面横位ナデ。	前期後葉 諸繩a式
7	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・黒色粒	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	小波状口縁。横位の連続爪形文。逆C字状の刺突を伴う隆帶。内面ナデ。	前期後葉 諸繩a式
8	縄文土器 深鉢	—	①普通 黒色粒	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	横位の連続爪形文。内面ナデ。	前期後葉 諸繩a式
9	縄文土器 深鉢	—	①普通 雲母	②にぶい黒 ④口縁部片	③白色粒	縱位の低い陰帯および沈繩。	中期初頭 五頭～台式
10	縄文土器 深鉢	—	①普通 雲母	②にぶい黒 ④口縁部片	③白色粒	縦位集合沈繩。半截竹管状工具による縦位集合沈繩。	中期初頭 五頭～台式
11	縄文土器 深鉢	—	①普通 雲母	②にぶい黒 ④口縁部片	③白色粒	口縁部文様帯の柱状区画内に柱状区画内に単施繩文L.R.	中期後葉 加曾利I型式
12	縄文土器 深鉢	—	①普通 色粒・赤色粒・黒色粒	②にぶい黄褐色 ④口縁部片	③白	縦位沈繩。縦位回転押捺による撲系文。	中期後葉
番号	器種	法量(cm×g)、成・整形技法の特徴	備考				
13	石器	打製石斧	長さ(4.6) 幅4.0 厚さ1.5 重さ28.6 頁岩、短冊形。中央へ刃部欠損。				
14	石器	スクレイパー	長さ5.7 幅3.6 厚さ1.3 重さ22.8 頁岩。短冊形。中央へ刃部欠損。剥片の縁辺部に片面加工が施され、上・下端部に微細削痕が認められる。				
15	石器	スクレイパー	長さ6.0 幅5.5 厚さ2.3 重さ56.2 頁岩。剥片の二側縁に平面加工を施し刃部とする。裏面上部に微細削痕。				
16	石器	磨石	長さ10.3 幅9.8 厚さ2.7 重さ442.5 砂岩。扁平緩の表・裏面に磨擦痕。周縁の一一部に敲打痕。				
17	石器	石皿	長さ(26.3) 幅25.7 厚さ8.2 重さ3,900.0 安山岩。大型礫を素材とする。皿面は浅く溝み、部分的に凹凸。裏面は全体に滑粗し、中央付近に凹穴。欠損品。				

V まとめ

1. 壁穴住居跡の年代と特徴

今回の調査で発見された4軒の壁穴住居跡は、7世紀から8世紀代にかけて構築・使用されたものとみられる。H-1号とH-2号住居跡は重複しており、H-1号が新しく、H-2号の覆土を掘り返してつくられている。この2軒のあり方、および出土遺物が示す年代から、本遺跡の集落の時期は、少なくとも7世紀代（古墳時代終末期）と8世紀代（奈良時代）の新旧2期に大別される。H-3号住は、床面付近より見つかった須恵器（碗と蓋）の形態を根拠とし、新規の8世紀代に属すると考えられる。H-4号については、床面付近はもとより覆土中の遺物が少なく、時期が判然としない。

本遺跡の各住居跡に通じる特徴は以下のとおりである。平面おおむね方形を呈する住居跡のカドの丸みが通常より大きい。H-2号は短軸の奥付近にカマドが構築されており、H-1号をはじめ他の住居跡もそれに類する可能性がある。絶じて壁穴の検出深は深く、50～70cmを測る。また、H-4号の17点を筆頭に、いずれの住居跡においても磨石の出土をみている。

2. 周辺遺跡との対比

横室田中遺跡としては、本調査区の南西にある1986（昭和61）年調査地点にて、縄文時代前期の集落跡が検出されている。今回の調査では、当該期の壁穴住居跡こそ見つかなかったが、調査区南端部を中心に、前期

前葉～後葉、中期後葉の土器破片や打製石斧、石皿などの石器が採取され、前回調査と同様、当該期の居住活動の一端を示唆する成果が得られた。また、前述した住居跡4軒の検出により、本遺跡は、同一の台地上に位置する古墳～奈良時代の集落跡として、田中田遺跡、岩之下遺跡に次ぐ事例となつた。これらは、上野国分寺・上野国府の造営が始まると同時の前後に相当している。横室地区をはじめ周辺地域の集落の消長は、南で展開される事業といふに連関したものか、あるいは近在する複数の古墳に示されるような旧来の生産基盤を利用しての自的な推移とみるべきものか。今後の調査事例の蓄積と検討の深化をまち、本調査の成果がその一助となることを願つてやまない。

参考文献

- 富士見村教育委員会 1986 『富士見遺跡群 田中田遺跡 塚谷戸遺跡 見眼遺跡』
 富士見村教育委員会 1987 『富士見遺跡群 向吹張遺跡 岩之下遺跡 田中遺跡 寄居遺跡』
 富士見村教育委員会 1991 『富士見地区遺跡群 隣場・庄司原古墳群』
 富士見村教育委員会 2006 『時沢宮東遺跡』群馬県勢多郡富士見村教育委員会
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『上細井北遺跡群 No.1』

抄録

フリガナ	ヨコムロタナカイセキナンバー二
書名	横室田中遺跡No.2
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編集者名	福田賀之 和久拓照
編集機関	有限公司毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	西暦 2014年7月31日

所収遺跡名	所在地	コード				調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
よこむろたなかいせきナンバー二 横室田中遺跡 No.2	群馬県前橋市富士見町 よこむろたなかいせきナンバー二 横室田中遺跡 No.2	前橋市	10201	36°44'78"	139°06'32"	2014.03.17 ~ 2014.03.28	140 m ²	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
横室田中遺跡 No.2	集落	奈良 平安	堅穴住居跡 土坑	4軒 1基	土器類 須恵器

横室田中遺跡 No.2

宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 26 年 7 月 24 日印刷

平成 26 年 7 月 31 日発行

編集 / 有限公司毛野考古学研究所

発行 / 前橋市教育委員会

前橋市総社町 3-11-4

Tel 027-280-6511

印刷 / 朝日印刷工業株式会社